

独立歩兵第二旅団司令部部隊略歴

陸軍軍属 本田尚夫

内地帰還状況報告の件

昭和二十一年一月一日

首題の件、左記の通り報告す

年月日	概	要
二 一 五	輸送状況	人員並区分 四二名 独身軍属
三 三 三	鐵道輸送ハ後リ石炭若出宛	鐵道輸送ハ依リ天津貨物販出宛 概括着
三 三 三	豊台者日本官又集中營ハ宿營	天津貨物販着宿營
三 三 三	豊台日本官又集中營出宛	

0597



独立歩兵第二旅団司令部の一部  
部隊略歴

年月日	概略
至自 二 三 三 五	<p>輸送指揮官 陸軍少尉 鈴木 梨 陸軍衛生少尉 川正 明 輸送人員 五名八名</p>
二 八	<p>行動概要 河北省石家荘出發同日九日臺台到着。臺台與中世貨物廠內收容所に 入所</p>
三 二 三 五	<p>臺台出發令月二十二日天津到着。天津貨物廠內收容所に入所 天津收容所出發、令月今日德誌港着即日乘船出帆</p>

0599

	年 月 日
昭 三 三 仙崎若上陸今日復員完結	似崎到着 概 要

-150-

0600

0600

独立歩兵第二旅団司令部部隊略歴

陸軍少将 服部直臣

年月日	概要
昭 二 四 五	<p>部隊主力と令簡使の行動</p> <p>戦犯差懸の爲、天津に残留中の所昭和二十一年五月五日解放となり輸送が一三九大隊指揮官新在大尉の指揮を受け五月十日塘沽出發五月十七日、佐世保上陸復員す</p> <p>昭和二十一年五月十七日</p> <p>陸軍大尉 小本 弄 文 以下二十三名</p> <p>申し送り</p> <p>昭和二十一年五月十八日肉保書類の整備を完了し佐世保出張所人員班に預託帰郷す</p>

0601

独立歩兵第百九五大隊部隊略歴

年月日	概略
	<p>部隊名 独立歩兵第百九五大隊</p> <p>戦車第十三聯隊</p> <p>鐵道第十八師團</p> <p>独立輸送甲車隊</p> <p>北支野戰鐵道司令部 (石家荘支隊)</p> <p>北支野戰貨物隊 (石家荘支隊)</p> <p>北支野戰兵器廠 (石家荘支隊)</p> <p>陸軍省附 上野政見</p>
	<p>独立歩兵第百九十五大隊 三</p> <p>第百九十七大隊 五</p> <p>第百九十八大隊 二</p>

年月日	DE 台 三 五	概 要
一 三 三	一 二 三	<p>部隊編成終結及行動の概要</p> <p>炭磁経験者は松立歩隊に旅団司令部集合の命令を要領す</p> <p>左部隊人員を差出し炭磁要員帰還隊を編成す</p> <p>自士官一 下士官二 兵二五 計二八</p> <p>要員帰還の状況</p> <p>石家荘出發</p> <p>保定出發</p> <p>天津到着</p> <p>塘沽港出帆</p> <p>佐世保港上陸</p> <p>佐世保に於て部隊召集解除す</p> <p>本隊の状況</p> <p>河北省石家荘地区に警備中の諸部隊は昭和二十一年一月十五日 石家荘に集結 遂次蓮台集中途に集結しつゝあるものの如し</p>

越立歩兵第一九五大隊の一部部隊略歴

陸軍大尉 神田 耕 治

年 月 日	概 要
四 三	佐野中尉以下九十名帰還の目的を以て、天祥貨物廠へ某婦部隊主力と分隊す
四 四	中村兵長以下三名、某犯嫌疑者ヲ該隊留
"	佐野中尉以下九十名ノ解散ノ下士官八 兵八四名) 同レハ下以依
四 二	リ塘沽出航 佐世係上陸 要取なく帰陣ナリ 佐野兵長中尉 石井軍曹ハ残務整理者となり、四月二十二日、二日市 に至リ事務処理に任じ、四月 日任務終了帰陣す

0604



年月日	<p>五 二 五</p>
概	<p>編成の概要</p> <p>一、編成の完了</p> <p>軍令陸甲第一五号に依り、左記部隊より抽出され依り、昭和十九年二月二十五日河北省石家荘に於て編成を完了す。</p> <p>大隊本部 独立混成旅団より大隊長、第百十師団長より他より、本部附機関 第二十三文師団長の他より、本部附下士官を以て編成す。</p> <p>第一中隊 第百十師団より、建制一ヶ中隊を第二十三文師団より、下士官若手を加へ編成す。</p> <p>第二中隊 独立混成旅団より、建制一ヶ中隊を以て編成す。</p> <p>第三中隊 同右</p> <p>第四中隊 同右</p> <p>第五中隊 第二十三文師団より、幹部、第百十師団より、混成の兵員を以て編成す。</p>

<p>昭 和 二 九</p>	<p>年 月 日</p>
<p>歩兵死隊 才白十師團より編成し幹部及要員を以て編成す 通信隊 同 右 当師大隊長陸軍中佐音成五一以下一五七二名在り</p> <p>二、編成費の變動 大隊長 初代 自昭和十九年二月二十五日 至昭和二十年二月二十日 陸軍中佐 音成五一</p> <p>一代 自昭和二十年二月二十日 至 現 在 陸軍大尉 神田耕治</p> <p>主として転入及入営 中隊二十二部隊より未教育補充要約二〇〇〇名転入す 内地より昭和十九年徵集現役初年要約四五〇名入営す</p>	<p>概 要</p>

年月日	照
概	<p>中即ニ十二部隊より補充兵一九〇名数入り</p> <p>主要自了表出</p> <p>六百十師團に新一〇〇名転出し</p> <p>独立警備部隊編成委員として建制ニ付中隊（百四、百五中隊）及混成約一ヶ中隊を、又独立歩兵百九十八隊に約五〇名数出す</p> <p>本工兵備要員として約三十名転出す</p> <p>部隊転出に伴う一部の改編</p> <p>履次へ一五三部隊の転出と補充兵の転入初年度の入營と相俟って、抽出中隊の再編の爲に百三中隊の半分を以て百四中隊を百二中隊の半分を以て百五中隊を編成す</p> <p>警備の概要</p> <p>一 終戦前</p> <p>警備の概要</p>

可  
日  
日

昭  
二  
六

五  
五

鏡

牙

又隊口編成完結と其の在隊中に於て 団結力強化を計ると其の訓  
練の進捗を期し、二月下旬迄 在隊に附近の警備に並事す  
在隊に出発 石巻線蘆木に直駐 同日より在り如く中隊を配置、該  
地区の警備に任す

蘆木 隊

大隊本部 不在中隊主力歩兵砲隊 通信隊

新河原反藪隊

が一中隊

栗原及阜成隊

が二中隊

深原反武蔵隊

が三〇〇

東谷原及故城隊

が四〇〇

武 色 隊

が五〇〇

が二中隊及が五中隊の一部を独立歩兵が一九之大隊に配属すると其  
に、が二中隊主力を蘆木に配置し、機動隊とらし、が四中隊を  
栗原及阜成故城隊のが一中隊として新河原の警備を独立歩兵が一  
九八之隊に移譲、栗原及藪原の警備に充てしむ

年 月 日	概 要
昭 和 八	<p>大隊の警備地ヲ拡大に件ハ、オニ中隊として武強鏡陽果リオニ中隊として宮井塚の警備に任せしめたり</p> <p>オニ中隊としてオニオニ中隊より警備及石籠線ノ奥安ノ前着頭同ノ警備に任せしメ、オニ中隊として深原及武邑の警備に任せしメ、宮井塚を独立歩隊オニオニ大隊に警備を移譲す</p> <p>宮井塚ノ警備を独立歩隊オニオニ大隊より継承シ、同所ノ若ク既屬スル小隊を独立歩隊オニオニ大隊ノ一々小隊として同地に警備に任せしメ、オニ中隊として、鏡陽深原ノ警備を、オニ中隊として武強武邑ノ警備に任せしむ</p> <p>匪情ノ悪化に伴ヒ、石籠線ノ警備強化を計ル爲、オニ中隊主力を熊水に位置せしめ、鐵道警備に再愈せしむると共、安平を独立歩隊、オニオニ大隊に移譲す</p> <p>補給ノ悪化に伴ヒ、<b>鏡陽</b>、<b>安平</b>、<b>阜城</b>を徹収す</p> <p>大隊主力は、赤田直轄移動部隊となり、熊水地区の警備を独立混成大隊が擔持し、石籠に集結す</p>
昭 和 五	
昭 和 四	
昭 和 三	
昭 和 二	
昭 和 一	

<p>昭 三 八</p>	<p>才ニ中隊ヲ 豫界地邊に在リテ、又第一中隊カ一部ヲ豫界地区に在リ テ同地警備ヲ行フ、独立歩兵第一九八大隊ハ既屆寸 立チ、石家莊集結シ同地に、才ニ中隊ハ獲底に到リ、独立歩兵第一九 七大隊ハ既屆寸 河司主力ト以テ豫界ハ前夜同地撤収定規中終戦に至ス 主要トシテ其時 劉小寨附近ノ戦闘 張里倉ノ附近ノ戦闘 小八屯附近ノ戦闘 韓村鋪附近ノ戦闘 ニ 終 戦 後 行動反響備概要 豫界ノ撤収ト共ニ豫界ヲ撤収、才ニ中隊ヲ降ク全主力、石家莊に集結</p>
----------------------	--

40  
外  
比  
支

- 164 -

0610

0610

年月日	概略
昭 三 九	<p>市街地の警備に任ず 一部を石家荘に残置し、主力は元氏に前進し、元氏一石家荘間の鐵道警備に任ず</p> <p>才三中隊は鐵道警備を才一才七大隊より原州長に復歸す 南京漢線鐵道警備を才國軍に移讓し、石家荘に集結す</p> <p>武裝解除隊及歸國復員</p> <p>石家荘に於て武裝解除せりし、 同地出發の爲に諸物件の檢収並に携行品検査を受け 石家荘出發、鐵道に依り臺台に向ひ前進す</p> <p>臺台集中營に在りて復員歸國を準備 臺台集中營出發鐵道に依り天津に向ひ前進す 天津消息管理所に集中す、百十八師團長の指揮に入り、米軍特殊勤務に服す</p>

年月日	概
昭 三 三 七	<p>独立歩兵第三旅団の天津進出に伴い、原附属の復員し、従軍通りの勤務に任ず</p> <p>四 五 帰國の再天津貨物廠に集結す</p> <p>四 五 天津貨物廠を出發、塘沽港到着、同日乘船出發す</p> <p>五 四 佐世保港に上陸、針尾田海兵団に集結</p> <p>五 五 針尾田海兵団に於て復員式を完了す</p> <p>五 三 二日市復員本部に於て、復員を完了す</p>

41

四

北

支

0612



独立歩兵第百九十九大隊部隊略歴

陸軍大尉 山下義春

年月日	
櫛	<p>編成完結の状況</p> <p>初頭軍令陸軍中少百十五号に拠 編成下令</p> <p>河北省石家荘に於て編成完結</p> <p>初代大隊長 陸軍中佐 中野 勇 一</p> <p>初頭 軍令陸軍中少百十五号に拠り編成下令</p> <p>河北省石家荘に於て編成完結</p> <p>初代大隊長 陸軍中佐 中野 勇 一</p> <p>人員 大隊長以下 一五〇三名</p> <p>警備継承</p> <p>河南作戦参加のため出動せし中百十師回隸下部隊より 其の警備を継承す</p>
櫛	<p>三 七</p>

0613

年月日

昭和一九三  
至一九三  
七

概

要

繼承警備地区左ノ如シ

本部 井隆隊井隆炭礦(本館)

一 井隆隊 井隆炭礦(本館)

二 井隆隊 井隆炭礦(本館)

三 井隆隊 井隆炭礦(本館)

四 井隆隊 井隆炭礦(新館)

五 井隆隊 井隆炭礦(本館)

歩兵砲

通信

井隆隊 井隆炭礦

井隆隊井隆炭礦附近ノ警備

井隆十師団隷下部隊より其ノ警備を繼承せし下隊は、重兵を時差要事

菜場(井隆正堂前炭礦被木炭電所) 並に鉄道(石太線)ノ確保に指

向し、其ノ警備に専念、不意ニ作戦計代り更視せしりしは、此ノ間、

井隆中隊長、井隆中隊長、相次いで陣死し、又亦斯かろしき犠牲を生

年 月 日	記 五 九 二
<p>権</p> <p>要</p>	<p>セリ、該期間主要事項左ノ如シの八月二〇日、兩村北支方面軍司令官 ノ夏換閣受関</p> <p>大隊本部の移駐</p> <p>警備繼承以來、井陘炭砒（本砒）に在リテ、大隊本部は、右太嶽迄 線鬼化に伴ひ古來換受の地トシテ、若名古漢泊陰隆背水ノ陣設、井陘 炭砒（本砒）に移駐す</p> <p>陣の配備左ノ如シ</p> <p>本部井陘炭砒木ノ一中队元氏炭砒、オニ中队井陘炭砒在</p> <p>オニ中队井陘炭砒、オニ中队井陘炭砒、オニ中队井陘炭砒、オニ中队井陘炭砒</p> <p>步兵隊井陘炭砒（本砒）、通信隊井陘炭砒</p> <p>井陘炭砒木附近の警備</p> <p>文通の要衝砒に務駐、七八大隊は敵鬼化せる國際情勢下、克々当面 八路軍の行動を制賊し、且警備に万全を期し、地区内視平視を保ち爾 たるも昭和二十一年に入ると、在支米軍軍行動の始る然炭化し、爆轟</p>

0615



<p>昭 三 八 五</p>	<p>才五 井陘果賈庄 歩兵砲隊 井陘果井陘炭磁(本磁) 通信隊 井陘果散水 才一 中隊長ノ戦死 終戦 井陘果散水に於て終戦の大詔正 ラジヲ放送により曉取し各隊 首ノ等々取込時ノ既備佐ノ如シ 本部 井陘果散水 才一 中隊 井陘炭磁(新磁) 才二 井陘果散水 才三 井陘果井陘 才四 半山果平山 才五 井陘果賈庄 歩兵砲隊 井陘果井陘炭磁(本磁) 通信隊 井陘果散水</p>
----------------------------	--

42  
外  
北  
支

年月日	概
昭 三〇 八 五	軍令陸甲才百十六号に拠り復員不令
二 九 一	埋地百柒省区某解除
二 一 五	撥収才十一戦区石門地区撥収委員に依り撥収せり
二 一 五	散木出發 復員輸送のたりの散木出發
二 〇 〇	同日石家莊到着
二 〇 〇	石家莊出發
二 〇 〇	豊台到着
二 〇 〇	泉中堂入管
二 〇 〇	豊台出發
二 〇 〇	天津到着
二 〇 〇	法政堂入管、米軍特殊勤務に服務す
二 〇 〇	才一団令南販國者田川首長以下百十之名 M1-104 乗船販國す
二 〇 〇	法政堂出發 貨物輸入
二 〇 〇	貨物輸入
二 〇 〇	乗船到着

年月日	
概	<p>             三 四 五              三 四 三              撰述巻出候              佐世保巻上候              後頁完結              要 力              編成完結所大隊長以下              千五百二名              入 鹿 八十九              生死不明者 三五           </p>

第五歩兵次百九十之大隊ノ一部  
部隊略歴

陸軍曹長 田川 夏太郎

年月日	概	物
昭 五 二 五	石門市ハ於テ編成完結 一五々中隊及歩兵 團倉兩中隊 井陘縣石太站線反井陘岩磁ノ直進	
自 九 二 五	井陘縣 河北省井陘縣ニ於テ 石太線岩磁ノ 炭磁	
三 二 一 三	警備	
三 一 三	石門縣結リケリ撤水出發	
三 一 三	石門市到着	
二 八	石門市出發	
二 二	聖台泉中營到着	

0620



	日		
<p>一三 小才奥内は戦犯宿疑者として天津に強留すも直ぐ大隊長に復員すゝ見込なり</p> <p>二三 佐世保上陸</p> <p>四三 先発隊として四川會長以下ニ至る。貨物徴集船塘沽より乗船</p>	<p>三三 令二十一日迄特殊勤務</p> <p>三二 整台集中管出船</p> <p>二四 天津政管到着 主打と分内</p>	<p>天津法政管に於て 特殊勤務に服務</p>	<p>光榮を除く本隊へ現在勤務中</p>

0621

独立歩兵第一九七大隊部隊略歴

年月日	概
昭五二五	昭和十九年軍令陸甲才四十五号に依り河北省石門に若く編成完結 警備地に移動の爲、河北省冀南道藁城县に移動す
二五	ガ一〇師団歩兵才一三九附隊、才三大隊より、河北省靈寿县、 金剛攻勢隊より確保す。平山、正原の各県に警備を継承し、目的地附近 の警備に就く
三七	警備地を變更し、河北省正定県に移動し、靈寿县(瓜坂)、金剛、西故 勢隊より確保す。正定、藁城、恩極、梁城、趙、寧晋、高邑、冀望、元 代、各県(新定)―高邑間の京漢線の警備及、棉産地の確保の警備 を擔任す
八三	警備地を變更し、河北省石門市に移動し、河北省石門市、正定、藁城 趙、高邑、冀望、元代(新定)―高邑間の京漢線及、石徳線の一部の 警備の警備を擔任す
九三	

外 北 文

年月日	昭 三 三
概	<p>昭和二十一年軍令陸甲ノ十八号に依り、大隊本部及ニヤ中隊の、オニ秋五警備隊に取属せしり新に大隊本部及ニヤ中隊を捕獲編成す。</p> <p>部隊名 独立歩兵隊一九七大隊 部隊長官氏名 陸軍中佐 光 武 秀 次</p> <p>編成開始の状況 軍令陸甲ノ百十五号に據り、オ百十師団長編成兼任官となり、河北省石門市に於て、昭和一九年一月ニエ日弁編成に着手。</p> <p>独立混成オニ旅団より建制三個中隊、オ百十師団より建制一個中隊、オ二十之師団、オ百十師団よりの者も以て、大隊本部及ニヤ中隊編成す。</p>

年月日	
概	<p>河北省石門市に於て、編成完結す。</p> <p>終戦開より編成開始迄の概要</p> <p>石門市に位置し京奉線及石太線の鐵道警備並に石門市に留邦人の直接警備に任事す。</p> <p>中國軍が三軍長隨隊我中將に於て擧げらる。</p> <p>石門市に留邦人の直接警備に任事す。</p> <p>復員の爲、石門出發、同年同月九日、臺台に到着、同地集中營に三月四日迄在營す。</p> <p>翌の同月十日同北京郊外南苑飛行場の米國特殊勤務に任事す。</p> <p>臺台集中營出發</p> <p>翌文日天津貨物廠に到着す。</p> <p>到着と同時に天津連絡部長の指揮下に入り、貨物廠内に於て米國業務</p>

0624

年月日	
概	<p>昭和三十四年四月七日</p> <p>貨物廠外法改管に於て、米國及中國獨特殊勤務に従事す</p> <p>復員の為、天津貨物廠内、天津匯館即ち乘船す</p> <p>福岡県二日市に於て復員完結</p> <p>佐世保に上陸同日復員す</p> <p>五月三日、</p> <p>入院 五八名</p> <p>生死不明 三〇名</p> <p>死 七</p>
略	<p>昭和三十四年四月二日</p> <p>復員の為、天津貨物廠内、天津匯館即ち乘船す</p> <p>福岡県二日市に於て復員完結</p> <p>五月三日、</p> <p>入院 五八名</p> <p>生死不明 三〇名</p> <p>死 七</p>
	<p>昭和三十四年四月二日</p> <p>復員の為、天津貨物廠内、天津匯館即ち乘船す</p> <p>福岡県二日市に於て復員完結</p> <p>五月三日、</p> <p>入院 五八名</p> <p>生死不明 三〇名</p> <p>死 七</p>



年 月 日	概 要
四 三	ハ至リ前 兵士清北河南岸地区に指向し附近の警備に任ず
八 四	停戦詔書發布
八 五	復員下令
九 二	停戦協定締結
九 六	河北省石家荘に暴発、平漢線より滄保並に附近の警備に任ず
二 一 二	任補在中國軍と交代し、河北省石家荘に於て武装解除（豫限）を受く
二 三	復員帰國の爲り、河北省石家荘出發
二 三	天津到着
二 三	天津市内に於ける米軍特種勤務に従事す
四 二	天津出發 同日塘沽出航
五 三	佐世保上陸復員命令行ふ
	要 力
	内地復隊 八二五
	外紀隊 一八三
	入院 四五
	生死不明 二二
	死 七
	九九
	残留者 九
	負傷者 一
	計 一八八

独立歩兵第二旅団独立歩兵

第一九八大隊の一師部隊略歴

指揮官 陸軍中尉 杉本昌平

年月日	
税	<p>昭和三四三 杉本中尉以下一三六名（中尉） 下士官一三 兵一〇二 天津師団主力より有商・天津貨物廠に集結復員準備 M一〇四輸送大隊に編入 天津出発 LFTQ005に乘船 徳島港出発 佐世保港上陸 米野曹長以下一三四名要状行く帰郷寸 杉本中尉三本任長内残務整理より四月二十三日之日市に至り、事務処 理に任し、四月二十四日任務終了帰郷せり</p>



独立歩兵才二旅團通信隊部隊略歴

指揮者 陸軍大尉 鈴木有助

年月日	概略
昭和五二年五月	<p>初編、司令陸甲才百十五名に據り編成下令          到北省石家荘に於て編成完結          初代独立隊長 陸軍中尉 鈴木有助          員 独立隊長以下一〇一名</p>
昭和五二年七月	<p>警備繼承          河南作戦参加為收動せし才百十師団通信隊より其の整備を繼承す          繼承警備地は左ノ如シ          即隊石家荘市内及石家荘隊間の通信連絡に任し併之市内周辺ノ警備任          務に取寸</p>
昭和五二年八月	<p>傳真器書發布          終戦</p>

0629

95  
小  
北  
文

年月日	概
概	<p>終戦後、石家荘に於て警備並に通信連絡を遂行          軍令陸軍部百十六号に據り復員下令          降旗協定締結          概 収</p> <p>才三軍石州地已接收員に據り接收せり          石家荘伏魔(午前〇五、〇〇)復員輸送の爲天津に向ひ前進          天津北站到着</p> <p>同日部隊は独立歩兵才二旅団長の指揮を脱し、才百十八師団長の指揮          に入ら</p> <p>同日海光寺兵營に入營、米軍特殊勤務に服務す</p> <p>部隊は才百十八師団長の指揮を脱し、蒙州局へ復歸す</p> <p>同日才百十八師団復員某結に伴ひ通信機材の引継</p> <p>部隊は復員某結の爲、米軍特殊勤務を先せり</p> <p>海光寺兵營出發、貨物搬入廠</p> <p>貨物搬出廠</p>
八 五	三 五
九 二	三 五
八 五	三 五
三 八	三 八
三 七	三 七
三 五	三 五
三 五	三 五
三 五	三 五

0630

年月日	概要
昭 和 一 四 一 七	糖港到着
四 一 七	糖港出帆
五 一 四	佐世保上陸
五 一 五	二日市に於て復員定給
八 一 五	終戦より帰還途の概要 軍令陸甲不西ノ之另ノ據リ、復員下令
三 一 五	右家荘出帆復員輸送ノ為、天津に向ひ前送
三 一 八	天津到着、海光舟長等ノ入港米軍物疎勤務ノ服務寸
四 一 五	海光舟長等出帆、貨物輸入旅
四 一 七	貨物輸出旅
四 一 七	糖港到着
四 一 七	糖港出帆
五 一 四	佐世保上陸



次三枝五警備隊司令部  
 仲乘次一五文五八部隊略歴

印隊長 陸軍少將 正 賢 龍

年月日	概略
<p>三 三 三</p>	<p>編成の状況          編成下令は四月、才之十三師団長、世軍中尉野副昌徳、編成擔任官と          たり、編成着手、          北東に於て編成を完了す          編成擔任官たる師団長、世軍中尉野副昌徳、編成擔任官と          司令官は三月九日覺令、同月一七日着任す          編成時、於て人員充足状況は、新成約五〇%、部下士官、兵士通し、          約五五%にして、敵員は捕殺に在りては五月以降七日迄の間、敵兵に          對り予備隊見習士官士以て逐次充足せられ、部下士官、兵士に在りては、六</p>

0633

年月日

概

要

月末及七月上旬、現地召集者及入隊者を以て概ね定員を充足し得たこと遂に停戦となりたり

任帯及行動の概略

編成完結より停戦迄

編成完結と同前同様、第十三師団の指揮下に入り、四月五日の捕を以て、不之七旅団より河北省熱河道（大興、宛平、昌平、順義、懷柔、密雲、通遼、三河、平谷、薊縣）及保定道（一節一節、涿州、新城、涿水）華北代務委員会より直轄行政区（長沙、涿州、房山、固安、永清、安次、霸州）の警備を継承す

更に五月一日、不之十三師団の滿洲移駐に伴い、北支那方面軍の直轄となり、新たに北京特別市の防衛任務を擔任す  
統して六月十五日戦車が之師団、中支より北京移駐と共に、其の

46

北支

0634

年月日

概

要

指揮下に入り又七月二八日、独立混成隊八旅団、密要地区移駐  
に伴ひ、同地の警備を同旅団へ移譲、警備地区を縮少し、依然  
前任務を続行し八月十五日停戦となる。

停戦後

停戦後依然給飯維持の責に任じ、北京特別市に於ける歩外事項を  
戦車や三師団に移譲する外、遠隔地の警備駐屯小部隊を大隊主力  
の位置に集結せしむると共に、警備擔任地区内鐵道沿線に集約し  
十月五日、重慶軍の北京附近直駐屯、主として北京特別市及鐵  
道の警備に任ず

此の間滿州熱河省興隆堡駐屯の歩兵や二百四十聯隊が一大隊

(八一部隊)長、陸軍大尉(下道重幸)長隊線を脱出匪徒に集結せ  
るを以て九月十日警備隊の指揮下に入りしのである

停戦直後ソ聯軍の張家口及び北口方面からの南下に備へ、北京特  
別市及鐵道の警備を強化す

0635

<p>至 自 至 自        五 五 四 五        五 三 三 三</p>	<p>年 月 日</p>
<p style="text-align: center;">概 要</p> <p>又土匪（延安軍）の跳梁は、終戦と共に其の行動頓に経路化し、各警備地に対する攻襲及び鉄道の破壊甚しく各部隊の集約不十分、困難を伴ひ、約五十名の義北傷害者を出せり。</p> <p>統して十一月下旬独立匪隊が八坂団の警備地区（察東・石匣間）に対する土匪の計画的反攻熾烈化せしを以て十二月二日、独立警備隊が十三大隊の主力を更に同月十五日、独立警備隊が十四大隊の主力を又々察東地区に派遣し、右八坂団の指揮下に入りしめ、警備に任し、重慶軍の同地区直撃に付て十二月六日復帰せしむ。</p> <p>終戦迄に於ける主要作戦</p> <p>燕京道作戦（燕京道地区の延安軍掃蕩戦）</p> <p>南東地区掃蕩作戦（南東西方延安軍根據地掃蕩戦）</p>	

0636



年 月 日	至 自
概  要	<p>           國守 靜原地区作戦（延原軍の同地区に對する總反攻或滅戦）            復員            各部隊の武装解除後、米軍の計画に依り、次々在託の如く復員も完結            寸            米三銃五警備隊司令部            北東出張            德若出張            任世保上陸            復員完結            松五警備隊司令部十三大隊            豊台出張            德若出張            任世保上陸         </p>

-107-

0637

20  
外  
比  
反

昭 三 三	年 三 三	月 三 三	日 三 三	概
三 九	三 八	三 三	二 七	<p>復員完結</p> <p>独立警備歩兵第一四大隊 豊台出張</p> <p>糖站出張</p> <p>佐世保上陸</p> <p>復員完結寸</p> <p>独立警備歩兵第一四大隊 豊台出張</p> <p>糖站出張</p> <p>佐世保上陸</p> <p>復員完結</p> <p>独立警備歩兵第一四大隊 豊台出張</p>

-144-

5000

0633

日	月	日	概
三	三	日	塘沽出帆
三	三	日	佐世保上陸
三	三	日	復員完結
二	三	日	秋立警備歩兵一七大隊
一	三	日	北京西苑出帆
二	三	日	塘沽出帆
三	三	日	佐世保上陸
三	三	日	復員完結
三	三	日	秋立警備歩兵一八大隊
二	三	日	北京西苑出帆
二	三	日	塘沽出帆
三	三	日	佐世保上陸
三	三	日	復員完結

年月日	
概	<p> <span data-bbox="1082 488 1114 719">昭三二五</span>  <span data-bbox="1026 622 1058 719">二五</span>  <span data-bbox="970 622 1002 719">三四</span>  <span data-bbox="914 622 946 719">三四</span>  <span data-bbox="858 622 890 719">三八</span>  <span data-bbox="802 622 834 719">三三</span>  <span data-bbox="746 622 778 719">三七</span>  <span data-bbox="691 622 722 719">三五</span> </p> <p> <span data-bbox="1129 757 1166 1048">才三秋五警備作業隊</span>  <span data-bbox="1074 790 1110 981">北京西苑出発</span>  <span data-bbox="1018 790 1054 920">塘沽出帆</span>  <span data-bbox="962 790 999 947">佐世保上陸</span>  <span data-bbox="906 790 943 913">復員完結</span>  <span data-bbox="834 757 871 1182">歩兵第百四十師隊第一大隊</span>  <span data-bbox="778 790 815 913">豊台出帆</span>  <span data-bbox="722 790 759 913">落石出帆</span>  <span data-bbox="667 790 703 947">佐世保上陸</span>  <span data-bbox="611 790 647 913">復員完結</span> </p> <p> <span data-bbox="539 757 576 846">備考</span>  <span data-bbox="483 790 520 1283">一、本表は部隊主力の行動を示す</span>  <span data-bbox="427 790 464 1541">二、輸送計画に依り分轄輸送地の小大をもつて除く</span>  <span data-bbox="371 790 408 1317">三、船舶時刻は米軍レポートに依る</span> </p>